

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372201943		
法人名	株式会社アバンセライフサポート		
事業所名	アバンセグループホームこころ(1階)		
所在地	愛知県一宮市北方町曾根字村東373-1		
自己評価作成日	平成30年 2月 1日	評価結果市町村受理日	平成30年 4月 18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kan=true&JiyosyoCd=2372201943-004PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成30年 2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの状況を常に把握して、細かい所まで介護が行き届くよう職員で常に話し合い納得がいくケアを心がけています。ご家族様がいつでも気軽に来ていただける、明るく自由で家庭的な雰囲気作りを努め、信頼関係を築けるよう面会時には日頃の様子をお伝えしております。年2回、ご家族様や地域の方をお招きして、夏祭り、クリスマス会を開催しています。毎日の食事にも気を配り、季節を感じていただけるように力を入れています。主治医の月2回の往診、医療連携での看護師による週1回の健康管理があり、利用者様やご家族様に安心していただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者・職員の信頼関係は強く、「管理者からは、職員に恵まれている」の声があり、職員からは「チームワークも良く、働きやすい環境」と聞くことができた。利用者の活発な生活支援は管理者・職員の経験習熟度を活かして職員の育成が成されており、さりげない利用者への支援は自然対である。職員の意思疎通もスムーズで、家族からも「利用者一人ひとりの事を良く理解し、報告・連絡・相談もしっかりなされている」「明るく親切」等と好評を得ており、職員が協力して支援していることが伺える。今年度ホーム内で、「こころカフェ」を月1回開催している。喫茶店ではなく、引いた札の内容「ニコリ」には利用者の笑顔、「早口言葉」の札に威勢よく早口言葉を言う等の工夫があり、利用者の楽しみになっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、行動指針を掲示して、各フロアで毎朝出勤職員が唱和して、よりよい介護とサービスに努めています。	法人理念・行動指針を玄関、ホーム内に掲示して、毎日唱和を行い、意識付けに努め、仕事に取り掛かっている。ホーム理念「その人らしさ」の追及は家庭的な雰囲気の中で実践されている。	理念を具体化したホームの年次目標や個人目標を設定して取り組み、振り返りの機会を持つことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様との散歩や出退社時に近所の方と挨拶をかわしたりしている。野菜のおすそ分けを頂いたり、柿狩りをさせて頂いている。また、近くの喫茶店を利用者様と利用して顔なじみになっている。	運営推進会議で「地域との交流をしてみよう」の見から今年度、地域住人の柿畑で利用者の柿狩りが実現した。年2回のホーム行事には利用者・家族・地域住人が参加しており双方向の交流がある。	認知症の関わり等について、地域の人に啓発する機会や、相談を実施する等して、地域に向けた情報発信を行い、地域福祉の拠点としての役割を担って行くことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	消防訓練、運営推進会議、クリスマス会などイベントが行われる時には、地域の方もお招きしています。その際、認知症の方の理解や支援をお願いしています。また、相談を受けたりした時は、対応や支援の方法をアドバイスしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催して、事業所の状況や研修内容を報告し、話し合いや意見を伺って、今後のサービス向上に活かしている。	行政・地域包括支援センター・地域・利用者・家族・知見者・職員の参加により、年6回開催している。目標達成計画の進捗状況や研修報告、意見交換があり、出た意見はサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の利用者様の様子を年2回報告している。また、何か困った時はすぐに連絡をとり相談している。運営推進会議の議事録は毎回介護保険課に提出している。	生活保護の受給者の入居があることから、保護係の担当者が訪問している。報告や相談には、担当者とは、いつでも相談できる体制が構築されている。市の研修に参加して職員間で共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の排除の理念及び方針を玄関に掲示して、身体拘束はしないと全ての職員が認識している。声掛けの言葉にも注意している。夜間は防犯上施錠を行う。	管理者・職員は身体拘束による弊害を理解し、身体拘束をしないケアを実践している。玄関扉は日中開錠し、夜間のみ防犯上施錠している。スピーチロックについては、リーダーがその都度職員に問いかけ、職員が振り返るように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本社にて虐待研修を行っている。また、市や包括主催の虐待研修に参加してミーティングで発表して共有し、虐待に繋がらないサービスができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が権利擁護に関する研修に参加して、関連する制度を理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとっていただき、御家族様の不安や疑問に対して誠意を持ってお答えしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に設置してある来所記録の記入欄に意見等を記入できるようにしている。また、行事の後にアンケートをとり、意見や要望を書いていたいただき、職員で共有し今後のサービスに活かしている。	運営推進会議や面会時に家族の意見・要望が出やすい関係を築いている。家族アンケートでは満足度が高く「感謝しています」「家族に対しても明るく丁寧に接してくださる」等、好評を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングや、毎日の申し送り時に提案や意見は言っている。それを実践して改善するように取り組んでいる。事務所には代表者へ意見が伝えられるよう提案箱が設置されている。	管理者は常に職員の意見や提案を聞く姿勢である。職員から「チームワークも良く、何でも話が出る」の言葉を聞くことができ、5年以上勤務する職員も多く、新人を育てる環境がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年一回職員全員の給与の見直しを予定して、やりがいのある職場条件に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のやる気が継続できるよう心身のケアに重点を置いている。特に新人の育成では細かい配慮を心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修、他業種の講演会などに参加し、情報交換している。そしてサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に、本人、家族の意見要望を十分に聞かせてもらっている。また、入所前に本人にお会いして状況を把握し、安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望にも耳を傾けられるよう施設内を見学してもらったり、職員と顔を合わせてもらい信頼関係を築く努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が必要としている支援の見極めのため、1～2泊のお試しで泊まってもらうことも行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることはできるだけしてもらっている。また、利用者の力に応じた作業と一緒に行うことで、暮らしを共にしていると感じてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に本人の状況を説明し、家族のできることは協力して頂き、一緒に支えていけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と一緒に出かけ、買い物や外食を楽しんでいる方もみえる。また、入所前の馴染みの方が時々来所され、交流されている方もいます。	友人・近所の人との訪問があり、友人と一緒に美容院に出かける利用者がいる。家族と自宅に外泊や法事、七五三に出掛けており、馴染みの人や場所への継続が途切れないように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、テーブルの配置を変えている。利用者同士のトラブルなどは職員が間に入り、大きなトラブルを防いでいる。問題ない関わりには、支え合えるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても病院や施設に面会に行ったり、ご逝去された時はお通夜に参列して最後のお別れをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや要望を把握するために、何気ない会話や表情に注意を払い、汲み取るようにしている。知り得た情報は、職員一同で共有し、検討している。	利用者の思いを把握するため、表情や動作、スキンシップをしながら楽しい話をして、反応を見る等して汲み取るように支援をしている。入浴中に「餃子が食べたい」を聞き取り、ホームの中で餃子パーティーが実現した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご家族様から毎日の生活歴や生活環境を聞き、情報を共有することでご本人に合った暮らしができるようにサービスを提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの能力や興味のある事などを把握し、その力を活かした生活ができるよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、御家族が来所された時にご希望を伺ったり、なかなか面会に来られない方は電話でお聞きしている。担当職員から利用者様の様子や気付き等意見を出してもらい介護計画に反映させている。	利用者・家族の意見・要望を聞き取り、介護計画を作成している。アセスメント・計画書を居室担当者が見直し、毎月のケアカンファレンスで職員は共有している。	その人らしさ(個別ケア)のでた具体的な介護計画であり、利用者・家族・職員の達成感が得られる、質の高い介護計画書の作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介助の内容は、個別のケース記録に記載し、職員皆が目を通して情報を共有している。毎月のミーティングで意見を出し合い問題があれば介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に添ったサービスが提供できるよう、他業種(かかりつけ医、看護師等)の人の意見を参考にし、職員全体で努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の美容室に来てもらったり、喫茶店や近くの商業施設へ出掛けたりしている。また、消防訓練には町内会や近隣の方も参加していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	12月より主治医が変更になり、毎月二回かかりつけ医による往診がある。急病の時は、主治医に連絡して指示を受け、受診している。	入居時に全員が24時間対応できる協力医を、かかりつけ医としている。協力医は月2回往診をして、利用者の健康管理に努めている。他科受診は家族対応を基本としているが、柔軟に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携をしているので、週一回看護師による健康管理を行っている。体調の変化や、心身の状態を伝え、対応の仕方など指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院の相談員と看護師に今の状態を教えていただいている。また、退院後のためにかかりつけ医に情報を伝えていただき、安心して退院していただけるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族から緊急時の対応の同意書をいただいております。医療機関から要請された時は提供できるようにしている。終末ケアに関しては、医療行為が必要になった時には医療に委ねるよう対応している。	契約時にホームの方針を伝えて、同意を得ている。ホームでの生活が難しくなった場合は、利用者にとって最善の支援になるように、家族と話し合っている。管理者は体制を整え看取りに取り組んで行く考えである。	体制を整えば看取りを行う方向であり、そのためにも勉強会等を行い、重度化や終末期に向けた体制作りや職員の意識統一を図ることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、手順、そして応急手当のマニュアルを作成している。また、かかりつけ医や看護師に連絡して指示を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備えて飲料水、食品等備蓄してある。全職員がすぐわかるよう各フロアーに避難場所、避難経路を掲示してある。年4回の訓練も行き、そのうち一回は地域の方に参加していただいている。緊急時は近隣の方に応援をお願いしてある。	年4回(夜間想定含)訓練では、初期消火等地域住人も参加している。運営推進会議において、防災の協力依頼を行い、隣人からも「助けに来る」との言葉がある。漏電のため停電になり備蓄等備えの必要性を実感した。	夜間の災害発生時には、地域の方々の協力が不可欠である。運営推進会議等で地域の役割等、具体的な協力体制の構築に努力されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録書類など個人名のあるものは使用しない時は、片付けるようにしている。また、排泄介助などは小声で伝えるように努めている。書類やメモ等は必ずシュレッダーにかけ破棄している。	職員と利用者は家族的な関係であるが、言葉や態度に馴れ馴れしさはない。傷つくことは言わないように心がけていると聞いた。トイレや入浴時にはタオルを掛ける等で、羞恥心にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を多く持つことで、ご本人の何気ないつぶやきを大切に希望に添うように努め、言葉で自分の意志が伝えられない利用者様に対しては、表情や顔色から思いを汲み取るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは基本的に決まっているが、一人ひとりの気持ちを大切に個々の生活パターンを優先するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二か月に一回、近隣の美容室から訪問美容に来て下さっている。自立の方は、自分で好みの服を選んで着ていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の物を献立にして提供できるように、職員が考えている。準備もできる方にはお手伝いいただき、作る楽しみも持ってもらっている。また、おぼん拭きを楽しみにやって下さる方もいます。	職員が考えた献立を、利用者の力量や要望により、包丁で切る・皮むき・食器を洗う・配下膳等を、職員と共に行っている。利用者と職員が隣り合わせで食事を摂り、家庭的な雰囲気が漂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べる量を把握して、ミキサー食、刻み食等状態に合う食事を提供している。食事量、水分量は記録しているが、摂取量が少ない方には声掛けして促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの支援をしている。拒否が強く、口腔ケアが難しい方は無理強いせず、体調やタイミングを計り嫌な思いを払拭してもらえよう努力している。希望者は、週一回歯科衛生士による口腔ケアを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はトイレ誘導を基本に、排泄記録を記載することで排泄パターンを把握しており、自立に向けた支援を行っている。	トイレでの排泄を基本とし、排泄自立の利用者が多い。排泄チェック表を活用し、利用者に合わせてさりげない誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食材やヨーグルトなど取り入れ、水分にも注意している。便意を訴えない方も、定期的にトイレ誘導し排便している。下剤が必要な場合は利用者様に説明して内服していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりのタイミングに合わせてるように努めている。入浴剤で温泉気分を堪能していただき楽しんでもらっています。	週2回の入浴を基本としている。利用者に合わせ清拭・足浴・シャワー浴・陰洗等を組み合わせて、清潔保持をしている。寛いで入浴できるように、風呂の中の足の運動を行い、利用者から「気持ちいい」との声が聞かれる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間に決まりはなく、個々の生活習慣を大切にしている。部屋の温度、湿度調整を行い気持ちよく眠れる環境を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	12月より往診時薬剤師も同行して利用者様の状態を把握し、職員にもわかりやすく説明してもらっている。また、服薬チェック表を使用して飲み忘れや誤飲のないようダブルチェックして確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いを持っていただける役割をお願いしています。毎日の掃除、洗濯物を干したり、たたんだり、食事作りの準備やおぼん拭き等お手伝いしていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自由に外出はできないが、利用者の体調や天候を考慮して、散歩や喫茶店に出かけている。また、家族にも協力をお願いしています。	月に1回ユニット全員で近隣の喫茶店に出かけている。全員が外出できるように、業務日誌に記入し、近隣遊歩道の散歩や、買い物に出かけている。草むしりや花の水やり等の役割もある。日常生活の中で外気浴を味わい、季節を感じるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金のトラブルを防ぐため、現金は事務所で預らせてもらっている。本人が希望する時に使っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話を希望した時は、内容に応じて対応している。また、手紙の希望があれば葉書等お渡ししています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアーには季節を感じて頂けるよう花や壁画を飾っている。その壁画作成には、利用者様にも参加して頂き、楽しんでもらっている。また、塗り絵など利用者の作品を掲示し喜んでもらっている。	食堂兼リビングは日当たり良く、死角の無い台所から利用者を、見守りしやすい環境である。壁面の折り紙が季節感を感じさせ、ホーム行事や利用者個人の写真や利用者の作品が掲示されている。食後、塗り絵に勤しむ利用者等、居心地よい時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各フロアーに数カ所のソファが設置しており、思い思いに座ってみえます。また、違うフロアーへ行き会話の機会も作っている。気の合った利用者同士は近くの席になるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのある物を置き、畳での生活を望まれる方には畳を用意しています。また、行事でのスナップ写真も居室に飾っています。	入居時に、仏壇に精を入れ遺骨と共に置かれた居室、筆筒、化粧品等、馴染みの物が持ち込まれている。新聞の切り抜きを楽しむ利用者等、清潔で居心地のよい雰囲気がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベツから転落の危険のある方には床対応、異食の可能性のある方のために、居室やフロアーに置く物に注意している。トイレの場所がわかるように矢印で案内したり、大きい文字で表示してある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372201943		
法人名	株式会社アバンセラライフサポート		
事業所名	アバンセグループホームこころ(2階)		
所在地	愛知県一宮市北方町曾根字村東373-1		
自己評価作成日	平成30年 2月 1日	評価結果市町村受理日	平成30年 4月 18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kanistrue&JiyosyoCd=2372201943-004PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成30年 2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの状況を常に把握して、細かい所まで介護が行き届くよう職員で常に話し合い納得がいくケアを心がけています。ご家族様がいつでも気軽に来ていただける、明るく自由で家庭的な雰囲気作りを努め、信頼関係を築けるよう面会時には日頃の様子をお伝えしております。年2回、ご家族様や地域の方をお招きして、夏祭り、クリスマス会を開催しています。毎日の食事にも気を配り、季節を感じていただけるように力を入れています。主治医の月2回の往診、医療連携での看護師による週1回の健康管理があり、利用者様やご家族様に安心していただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、行動指針を掲示して、各フロアで毎朝出勤職員が唱和して、よりよい介護とサービスに努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様との散歩や出退社時に近所の方と挨拶をかわしたりしている。野菜のおすそ分けを頂いたり、柿狩りをさせて頂いている。また、近くの喫茶店を利用者様と利用して顔なじみになっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	消防訓練、運営推進会議、クリスマス会などイベントが行われる時には、地域の方もお招きしています。その際、認知症の方の理解や支援をお願いしています。また、相談を受けたりした時は、対応や支援の方法をアドバイスしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催して、事業所の状況や研修内容を報告し、話し合いや意見を伺って、今後のサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の利用者様の様子を年2回報告している。また、何か困った時はすぐに連絡をとり相談している。運営推進会議の議事録は毎回介護保険課に提出している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の排除の理念及び方針を玄関に掲示して、身体拘束はしないと全ての職員が認識している。声掛けの言葉にも注意している。夜間は防犯上施錠を行う。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本社にて虐待研修を行っている。また、市や包括主催の虐待研修に参加してミーティングで発表して共有し、虐待に繋がらないサービスができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が権利擁護に関する研修に参加して、関連する制度を理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとっていただき、御家族様の不安や疑問に対して誠意を持ってお答えしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に設置してある来所記録の記入欄に意見等を記入できるようにしている。また、行事の後にアンケートをとり、意見や要望を書きいただき、職員で共有し今後のサービスに活かしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングや、毎日の申し送り時に提案や意見は言えている。それを実践して改善するように取り組んでいる。事務所には代表者へ意見が伝えられるよう提案箱が設置されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年一回職員全員の給与の見直しを予定して、やりがいのある職場条件に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のやる気が継続できるよう心身のケアに重点を置いている。特に新人の育成では細かい配慮を心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修、他業種の講演会などに参加し、情報交換している。そしてサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に、本人、家族の意見要望を十分に聞かせてもらっている。また、入所前に本人にお会いして状況を把握し、安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望にも耳を傾けられるよう施設内を見学してもらったり、職員と顔を会わせてもらい信頼関係を築く努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が必要としている支援の見極めのため、1～2泊のお試しで泊まってもらうことも行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることはできるだけしてもらっている。また、利用者の力に応じた作業と一緒にすることで、暮らしを共にしていると感じてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に本人の状況を説明し、家族のできることは協力して頂き、一緒に支えていけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と一緒に出掛け、買い物や外食を楽しんでいる方もみえる。また、入所前の馴染みの方が時々来所され、交流されている方もいます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、テーブルの配置を変えている。利用者同士のトラブルなどは職員が間に入り、大きなトラブルを防いでいる。問題ない関わりには、支え合えるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても病院や施設に面会に行ったり、ご逝去された時はお通夜に参列して最後のお別れをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや要望を把握するために、何気ない会話や表情に注意を払い、汲み取るようにしている。知り得た情報は、職員一同で共有し、検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご家族様から毎日の生活歴や生活環境を聞き、情報を共有することでご本人に合った暮らしができるようにサービスを提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの能力や興味のある事などを把握し、その力を活かした生活ができるよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、御家族が来所された時にご希望を伺ったり、なかなか面会に来られない方は電話でお聞きしている。担当職員から利用者様の様子や気づき等意見を出してもらい介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介助の内容は、個別のケース記録に記載し、職員皆が目を通して情報を共有している。毎月のミーティングで意見を出し合い問題があれば介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に添ったサービスが提供できるよう、他業種(かかりつけ医、看護師等)の人の意見を参考にし、職員全体で努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の美容室に来てもらったり、喫茶店や近くの商業施設へ出掛けたりしている。また、消防訓練には町内会や近隣の方も参加していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	12月より主治医が変更になり、毎月二回かかりつけ医による往診がある。急病の時は、主治医に連絡して指示を受け、受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携をしているので、週一回看護師による健康管理を行っている。体調の変化や、心身の状態を伝え、対応の仕方など指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院の相談員と看護師に今の状態を教えていただいている。また、退院後のためにかかりつけ医に情報を伝えていただき、安心して退院していただけるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族から緊急時の対応の同意書をいただいております。医療機関から要請された時は提供できるようにしている。終末ケアに関しては、医療行為が必要になった時には医療に委ねるよう対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、手順、そして応急手当のマニュアルを作成している。また、かかりつけ医や看護師に連絡して指示を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備えて飲料水、食品等備蓄してある。全職員がすぐにわかるよう各フロアに避難場所、避難経路を掲示してある。年4回の訓練も行い、そのうち一回は地域の方に参加していただいている。緊急時は近隣の方に応援をお願いしてある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録書類など個人名のあるものは使用しない時は、片付けるようにしている。また、排泄介助などは小声で伝えるように努めている。書類やメモ等は必ずシュレッダーにかけ破棄している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を多く持つことで、ご本人の何気ないつぶやきを大切に希望に添うように努め、言葉で自分の意志が伝えられない利用者様に対しては、表情や顔色から思いを汲み取るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは基本的に決まっているが、一人ひとりの気持ちを大切に個々の生活パターンを優先するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二か月に一回、近隣の美容室から訪問美容に来て下さっている。自立の方は、自分で好みの服を選んで着ていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の物を献立にして提供できるように、職員が考えている。準備もできる方にはお手伝いいただき、作る楽しみも持ってもらっている。また、おぼん拭きを楽しみにやって下さる方もいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べる量を把握して、ミキサー食、刻み食等状態に合う食事を提供している。食事量、水分量は記録しているが、摂取量が少ない方には声掛けて促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの支援をしている。拒否が強く、口腔ケアが難しい方は無理強いせず、体調やタイミングを計り嫌な思いを払拭してもらえよう努力している。希望者は、週一回歯科衛生士による口腔ケアを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はトイレ誘導を基本に、排泄記録を記載することで排泄パターンを把握しており、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食材やヨーグルトなど取り入れ、水分にも注意している。便意を訴えない方も、定期的にトイレ誘導し排便している。下剤が必要な場合は利用者様に説明して内服していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりのタイミングに合わせている。入浴剤で温泉気分を堪能していただき楽しんでもらっています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間に決まりはなく、個々の生活習慣を大切にしている。部屋の温度、湿度調整を行い気持ちよく眠れる環境を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	12月より往診時薬剤師も同行して利用者様の状態を把握し、職員にもわかりやすく説明してもらっている。また、服薬チェック表を使用して飲み忘れや誤飲のないようダブルチェックして確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いを持っていただける役割をお願いしています。毎日の掃除、洗濯物を干したり、たたんだり、食事作りの準備やおぼん拭き等お手伝いしていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自由に外出はできないが、利用者の体調や天候を考慮して、散歩や喫茶店に出かけている。また、家族にも協力をお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金のトラブルを防ぐため、現金は事務所で預からせてもらっている。本人が希望する時に使っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話を希望した時は、内容に応じて対応している。また、手紙の希望があれば葉書等お渡ししています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアーには季節を感じて頂けるよう花や壁画を飾っている。その壁画作成には、利用者様にも参加して頂き、楽しんでもらっている。また、塗り絵など利用者の作品を掲示し喜んでもらっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各フロアーに数カ所のソファが設置しており、思い思いに座ってみえます。また、違うフロアーへ行き会話の機会も作っている。気の合った利用者同士は近くの席になるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのある物を置き、畳での生活を望まれる方には畳を用意しています。また、行事でのスナップ写真も居室に飾っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベットから転落の危険のある方には床対応、異食の可能性のある方のために、居室やフロアーに置く物に注意している。トイレの場所がわかるように矢印で案内したり、大きい文字で表示してある。		